

昨年四月にオープンした「子育て支援ハウス ちっぷす」は、十勝では珍しい病児保育のある託児所です。これまで、十勝では病児を受け入れてくれる託児所はほとんどなく、あっても一般託児に比べて利用料金が高額であるなど、「いざ」という時になかなか利用しにくいのが現実でした。

代表の佐伯抄織さんも、看護師として働きながら育児をしていた一人の母親。東北の看護学校を卒業し、地元の帯広に戻ってきた時、十勝は車がなければ移動が不便なこと、さらに、子供が生まれてみると、仕事に行くにも気軽に子供を預かってもらえない場所がなく、何より子供の急な発熱など、病気の際に「困った」を身を以て知ることとなったのです。

「実家が同じ十勝管内であっても、車で一〜二時間もかかる場合もあるし、今は私たちの両親の世代も現役で働いていたり、趣味に忙しくしていたりで、身内といってもなかなか無理が言えない。同じ年頃の子供を持つお母さんたちとも情報交換をしましたが、皆さん口を揃えて『困っている』と……。そんな時、二年ぶりに仙台の友人

子供たちの幸せはお母さんの幸せ。  
そしてそれは、私たちスタッフの幸せです。



子育て支援ハウス ChipS (ちっぷす)

代表 佐伯 抄織さん



に会いに行ったら、仙台には病児保育をしている施設があると知ったのです。それで帯広市役所や十勝支庁などにも相談に行ったり、色々調べてみると、看護師の資格を持った上で設備を整えれば、個人でも開業できることが分りました」

看護師である佐伯さん。自分にも出来るかもしれない……。ここから、開業へ向けての準備が始まったのです。

### 「一期一会。今日出会えた「縁」を大切にしたい。」

それまで考えてもいなかった起業。経理の勉強や託児所とするべき物件探し、スタッフの募集など、めまぐるしく日々が過ぎていきました。



一人の母親としての体験から「子育て支援ハウスChips（ちっぷす）」を立ち上げた佐伯さん。

今、「ちっぷす」が託児所として利用している建物は、玄関も階段も二つずつある一戸建てで、一般保育室と病児保育室とがしっかりと確保できる理想的な物件。大きな窓からは日差しがたっぷりと入ります。

託児所は子供と親の両方をサポートできる施設であるべきと佐伯さんは話します。「Chips」は、「child&parent support」の略語。子供たちだけでなく、親御さんも含めてサポートをし、みんなで幸せを分かち合うことを大切なテーマにしています。

例えば、託児中に出た子供たちの汚れ物の洗濯や、希望に応じて夕食を出すことなどで、働くお母さんの手間を一つでも省き、その分、子供とのより良い時間を少しでも多く持てるようにと考えているのです。

「子供を託児所に預けるお母さんは、それだけでも不安を抱えているはず。本当にここでもいいのか、子供にとってこれはいいことなのか。また、ここは一時保育を中心にしていま



「ちっぷす」で元気に過ごす子供たち。子供たちはもちろん、働く親御さんのサポートにも心を尽くしています。

すので、今日会ったお父さんや親御さんに次も会えるとは限りません。私たちが手間を惜みず、一生懸命関わることは、お母さんの不安の解消や、子供たちとの出会い、縁を大切にすることにつながるはず。ここに預けて良かったと思っていたら、それで私たちも報われます。たった一時間の出会いであっても、そういう気持ちを持って仕事に取り組んでほしいと、スタッフには話しています」

### 一人の母親として。

育児経験者を中心に三十人の保育士と三人の看護師で運営している「ちっぷす」は、帯広市から病後児保育の委託も受けています。

休日はほとんどなし。二十四時間の大半を仕事に傾けている佐伯さん。一人の母親としては、辛いこともあるのではないだろうか。

「確かに息子との時間は限られてしまいますし、彼にとってこの環境はどうなのか……とは考えます。でも彼は一人っ子だし、たくさんの子供たちと触れ合うことはいい面もたくさんあるのではないかな？ 息子自身がどう思っているようには分りませんが、分ってもらえるように頑張らないと」

開業してから働くお母さんのさまざまな現実を目の当たりにし、自分の経験だけでは分らなかったことにも気づけたと言います。これからより充実したサポートを目指し、行けるところまで行きたいと話していました。(Y)

### 佐伯 抄織さん

昭和46年、帯広市生まれ。看護学校に進学し、32歳で資格取得。平成20年に「子育て支援ハウスちっぷす」を開業。託児料金は「働くお母さん」が設定。一般保育や病児保育、障害児保育などさまざまなサービスを提供している。

子育て支援ハウス Chips  
帯広市自由が丘6丁目1-13  
TEL 0155-41-6272